

～対面(田町キャンパス)とオンライン(Zoom)の併用で開催～
環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程 実施

コースの位置づけと特徴

■ 位置づけ

本コースは、日本の国際競争力強化に向けて、知的財産と経営との関係性を理解しつつ、企業等の競争力強化に貢献できる知財人材の育成を目的とします。

■ 特徴

- ① 充実の講師陣
東京科学大学技術経営専門職学位課程の知財分野の教員 & 知的財産マネジメントの実務に長けた外部講師陣
- ② 経営に対する知的財産の影響を多方面から理解できるカリキュラム内容
- ③ 講師とのコミュニケーション、グループによる研究成果発表など、人的ネットワークを形成
- ④ 働きながら学べる環境(講義時間、オンライン形式、場所、学習支援システム)



コース担当教員のメッセージ

仙石 慎太郎 環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程 教授



企業がグローバル競争の中で勝ち抜くためには、保有している知的財産や技術標準化の機会を最大限に活用することが必須であり、そのマネジメントは重要な経営課題となっています。戦略的な知的財産マネジメントを修得するためには、その多様な側面について、理論と実践の両面から学ぶ必要があります。この知的財産戦略コースはそのようなニーズに応えるべく、多分野の有識者を講師陣に迎え、知的財産戦略の学習と交流の場を提供します。

募集要項

■ プログラム受講期間

2025年5月24日～8月30日 毎週水曜 19～21時(全12回)

※ 初回は5/24の土曜日に実施します(14時開始)。

※ 最終回は8/30の土曜日に実施します(13時30分開始)。取り組んでいたグループ研究の成果発表を行います。

■ 受講対象者

知的財産の戦略的マネジメントの習得を目指す方。企業の知的財産部門・研究開発部門・技術企画部門、特許事務所、会計事務所、ベンチャーキャピタル、コンサルティング企業等で、業務とリンクした知的財産戦略の習得を目指す方、など。

【受講者の所属先の例】 旭化成株式会社、味の素株式会社、株式会社NTTDコム、キヤノン株式会社、ソニー株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社ニチレイフーズ、日産自動車株式会社、日本電気株式会社、株式会社日立製作所、株式会社プリテック、三菱電機株式会社、国立研究開発法人科学技術振興機構、特許庁、他、スタートアップ経営者・知財担当者も多く参加、これまで200名以上が受講

■ 受講場所

対面形式での受講を推奨しています。遠隔受講者のためにオンライン(Zoom)での受講も選択可能です。対面受講の場所は、下記を予定しています。東京科学大学田町キャンパス(東京都港区芝浦3-3-6 CIC) 410教室

■ 申込期間

2025年3月3日(月)～4月25日(金) (締切日必着)

※ 定員に達し次第、応募は締め切りますのでご注意ください。

■ 受講料

187,000円(消費税込)

※ お支払方法については開講日までに振込にて手続きしていただく予定です(5月下旬)。お振込み後の受講料の返還はいたしませんので、ご了承ください。

■ 募集人数

24名(最小開催人数12名)

■ 申込方法

願書に必要事項をご記入のうえ、下記の住所までお送りください(締切日必着)。申込用紙は専用webサイトからダウンロードできます。専用Webサイト：<https://www.cumot.isc.ens.titech.ac.jp/ip/index.html> 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 CIC910 CUMOT事務局 知的財産戦略コース受講申込担当

※ PDFファイル等、電子ファイルでのご提出も受け付けます(cumot-ip@mot.titech.ac.jp宛)。メールの送受信をもって押印・署名扱いとさせていただきます。

■ 受講審査・受講通知

願書をお送りいただいた後、志望理由書(該当する場合は推薦状を含む)に基づく書類審査をいたします(申込み順)。受講通知については、メールにてご連絡いたします(受講内定者には後日、受講許可をメールで通知)。

■ お問い合わせ

東京科学大学(Science Tokyo) CUMOT事務局
問い合わせ先E-mail: cumot-ip@isc.ens.isct.ac.jp
WebサイトURL: <https://www.cumot.isc.ens.titech.ac.jp/ip/index.html>
※ 受講についてのお問合せがある場合は、メール等にて個別相談にも応じます。

■ 募集説明会

説明会の動画をwebで配信いたします(3月下旬開始予定)。Webサイトの問い合わせフォーム(<https://www.cumot.isc.ens.titech.ac.jp/contact.html>)にアクセスし、「知的財産戦略コースについて」を選択し、必要事項を入力の上、「問い合わせ内容」、「説明会視聴希望」としてお送りください。視聴に必要なIDと資料(PDF)をお送りします。メール(cumot-ip@isc.ens.isct.ac.jp)でのお申込みも可能です。

実施体制

主催：東京科学大学社会人アカデミー

事業主体：環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程

修了認定：修了者には東京科学大学社会人アカデミー長名の「修了証書」を交付いたします。評価については、出席状況を含め、コースごとに行います。



知的財産戦略コース (2025年度)

コーディネーター挨拶



鮫島 正洋

弁護士/弁理士 弁護士法人内田・鮫島法律事務所 代表

東京工業大学特任教授、金沢工業大学客員教授などを歴任、特許庁 中小企業知的財産戦略プロジェクト統括委員長

■ 専門分野

物づくり企業向けの知的財産権法を中心とした技術法務、IT関連企業向けのビジネス法務、知財経営に関するコンサルティング

■ コースのねらい

知的財産権は、日本企業にとって必須のビジネスツールだと考えますが、そのビジネスとの因果関係を捉えることは容易ではなく、また、そのマネジメントも複雑なものです。本コースにおいては、このような観点から経営学のアカデミア、大企業の知財マネジメント経験者、投資家・コンサルタントなど、幅広い講師陣をお招きし、様々な視点から知財を議論し、活用できる人材を育成するものです。

スケジュール

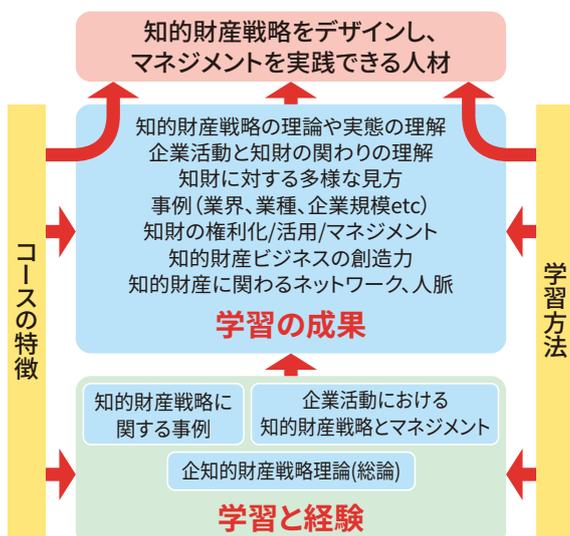
開催は、水曜日の夜19時～21時を予定しています。対面形式(田町キャンパス)とオンライン形式(Zoom)の併用を予定しています。全講義、オンライン配信もしますので、地方の方も受講可能です。

※2025年3月現在。

月日	回	内 容	担 当	所属・役職等
5/24(土)	—	受講ガイダンス	鮫島 正洋	本コースコーディネーター
	1	知的財産戦略のセオリとその適用限界	古俣 升雄	東京科学大学特任教授
5/28	2	産学連携の場面における知財マネジメント論	鮫島 正洋	弁護士/弁理士 内田・鮫島法律事務所 代表パートナー・弁護士
6/4	3	知的創造サイクルを再考する ～発明開発から参入誘因によるビジネス活用まで～	仙石 慎太郎	東京科学大学教授
	3	知的創造サイクルを再考する ～発明開発から参入誘因によるビジネス活用まで～	妹尾 堅一郎	NPO法人 産学連携推進機構 理事長
6/11	4	オープン&クローズ戦略と知財の重要性	立本 博文	筑波大学教授(技術経営)
6/18	5	知財を活用した企業競争力の向上	地曳 慶一	貝印株式会社 取締役 上席執行役員 知財・法務本部長
6/25	6	これからの知財部の在り方と知財人材のスキル	川名 弘志	KDDI株式会社 プロフェッショナル(知的財産戦略担当)
7/2	7	知識戦略と知財戦略 ～ベンチャー企業、ディープレックにおける知財戦略～	丸 幸弘	株式会社リバネス 代表取締役グループCEO
7/9	8	スタートアップ投資と知財	廣田 翔平	グローバル・ブレイン株式会社 パートナー/弁理士
7/16	—	グループ研究計画発表	鮫島 正洋	
7/23	9	デザイン経営と知財マネジメント	土生 哲也	株式会社IPディレクション 代表取締役/弁理士
7/30	10	知財とファイナンスの交錯	小林 誠	株式会社シクロ・ハイジア 代表取締役CEO
8/30(土)	11	特別講義	調 整 中	
	12	グループ研究 最終成果発表会、講評	鮫島 正洋	

登壇予定の講師詳細については、webサイトに随時更新予定です。 <https://www.cumot.isc.ens.titech.ac.jp/ip/lecturer.html>

学習目標と体系・学習方法



■ 学習方法

- ① 知財分野の内外専門家による講義(知識のインプット)
MOTと知財の融合、知財マネジメント論、投資を含めたファイナンスなど、幅広い視点から知財を学びます。
- ② 研究課題への取り組み(知識の活用・ネットワーク形成)
グループごとに研究課題を選定し、①でインプットされた知識の活用を通じて、知識のインプリメンテーションを行います。
- ③ 双方向の授業
講義のみならず、双方向のディスカッションを通じて、講師・コーディネーターとの交流を図ります。

受講生の評価

■ 受講アンケート

5段階評価(修了生115名の回答実績)授業の総合的な満足度はどのくらいですか。4.7
授業で学んだことが今後自分の業務に役立つと考えていますか。4.5

■ 受講者の声

- ・実務に携わっている一流の講師陣の話は納得性が高いだけでなく、すぐに自分の仕事に活かせるため、とてもよかったです。
- ・知的財産において、さまざまな角度からのアプローチがあり、またアプローチする人によって様々な考え方があったことを学びました。
- ・多くの一流の社会人の方々(講師および受講生の皆様)に触れてディスカッションできたことが、何よりの財産でした。

※本プログラムは予定中のもので、一部、変更になる場合がございます。(2025年3月3日現在)